

令和8年度 施策事前評価シート

施策責任者 所属	地域防災課 くらし環境課	電話番号	直通	989-5505 989-5514
基本目標	絆でつながる 安心な ながいすみ			
政策	助け合い いのちを守るまちの実現	施策分野	防犯・交通安全	
施策分野 の総事業費	前年度 決算額	55,653 千円	今年度 予算額	52,434 千円

施策の進捗状況

	成果指標名称	年度	現状値 (R6)	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和12年	単位	進捗 評価
1	年間刑法犯認知件数	目標値	200	200	160	155	150	140	件	D
		実績値	164	213						
2	年間交通事故の発生 件数	目標値	200	200	161	161	161	160	件	B
		実績値	162	144						
3										
4										
					総合評価			C：進捗が思わしくない		

事前分析

施策分野における これまでの 取り組みの概要	・地区安全会議への支援、防犯カメラや防犯灯の整備・維持管理、交通・防犯啓発活動の実施、交通指導員会への支援、交通安全施設の整備、下土狩駅及び長泉なめり駅の自転車駐車場の管理を実施している。 ・平成30年度より、くらし環境課内に専門的な知識を有する消費生活相談員を配置し相談窓口を常設し、令和7年度にあっては前年度比で微増となる130件の相談があった。また、電話を介した被害を軽減するため、令和5年度からAIを活用した特殊詐欺対策電話機の設置支援事業を開始し、併せて高齢者や若年層を対象にした消費生活講座を積極的に開催している。
施策分野における 背景・環境 及び抱えている課題	・年間刑法犯認知件数は、前年度と比較して大幅な増加に転じ、特に、自転車盗、万引きの増加が目立っている。自転車盗の多くが無施錠の車両であり、施錠の徹底に係る周知・啓発が必要である。 ・年間交通事故の発生件数は、追突と出会い頭の事故で全体の約6割を占めている。また、高齢運転者（65歳以上）起因による事故は減少傾向にあるが、以前として高い割合を占めており、継続した交通安全対策の強化が必要である。 ・令和8年4月より青切符制度が導入され、同年9月から生活道路における速度規制が改正されることから、周知・啓発が必要である。 ・50歳代以上の消費生活相談が多い傾向にあるが、29歳以下の若年層からの相談も増加傾向にあり、内容としては定期購入を伴う通信販売や訪問販売が多い傾向にある。意識向上に向けた講座を実施しているものの、講座への参加が難しい方への対応に課題がある。
施策分野における 改革・改善内容 及び今後の見通し	・令和5年度には道路反射鏡やグリーンベルトの設置基準を新設したが、既存の道路反射鏡の老朽化に伴い強風等での落下や倒壊が発生しており、適正な設置及び維持管理が必要であるため、管理台帳の再精査や設置必要性の再検証を行う。 ・小学校3校区に設置している地区安全会議や地域安全推進員を有効に活用し、地域住民の防犯意識の向上、防犯啓発に努めていく必要がある。 ・多様化する相談内容に迅速に対応することが被害軽減に資することから、消費生活相談員の配置は必要不可欠であり現体制を継続していく。 ・消費生活に関するトラブルの多い高齢者や若年層をターゲットにした出前講座の積極的な展開を図りつつ、併せてホームページ、広報紙等、あらゆる媒体を活用した情報発信やアースキッズ事業を活用したこども向け啓発活動を展開していく。